

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 29 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520247

研究課題名(和文) 四国地域における俳諧資料の総合的調査と研究

研究課題名(英文) Research and comprehensive study of haiku material in Shikoku region

研究代表者

福田 安典 (FUKUDA, YASUNORI)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：40243141

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：四国地域では特に愛媛に多くの俳書が残されている。これらについては、かつては地元の研究者が翻刻や紹介、保存状況に務めてきたが、近年は保存について危機的状況にあると言わざるを得ない。その現状に対して、科研で行うことができた成果は、研究発表とシンポジウム開催である。

研究論文は、『平賀源内の研究 大坂篇』を刊行し、伊予松山の俳人、栗田樗堂について煎茶や上方文人との関係を整理した。シンポジウムは、松木淡々や山中時風を軸に、開催した。ついで、樗堂についての鼎談を実施した。また、フィリピン大学の国際会議で高浜虚子を中心とした「松山の能楽」について報告した。

研究成果の概要(英文)：most of Haisyo are left in Ehime especially in the Shikoku region. For these, local researchers have been served suggestions or republication, to save the situation in the past, but have to say that there is a critical situation for storage in recent years. Outcome could be for the current state, is carried out in scientific research is the symposium and papers, books.

So I reported Hiraga Gennai and Kurita Tyodo. And reported about Matyuyama Noh in Philippin University.

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：基盤研究(c)

キーワード：俳諧 四国 栗田樗堂 松木淡々 山中時風 平賀源内 煎茶 フィリピン

1. 研究開始当初の背景

地方に眠る俳書については、その保存や活用については危機にさらされている。かつては、それなりのどの地方にも郷土史家や愛郷家がいち、地方の俳書の紹介、翻刻が行われてきた。ところが、その悲惨な状況さえも深刻の度を増しているといわざるを得ない。すなわち、日本各地に残る近世期の俳書について、当該研究は四国地域をターゲットにしているのではあるが、例えば土居の暁雨館や四国中央市教育委員会所蔵の資料については、行政が手をさしのべているにも拘わらず。注目されることが少ない。これは比較的、注目されている松山においても同様で、何らかの措置が必要であると思われる。

その措置の一つには、研究の推進と活況があげられる。

同時に、シンポジウムや講演などを通じて一般社会にアピールする必要がある。

加えて、平賀源内研究には四国の俳諧との視座が必要である。

2. 研究の目的

俳諧に限ったことではないが、原資料を扱い、保存と顕彰に努める研究が減少しつつある。それにはいくつもの要因があり詳述は避けるが、とにかく俳諧について一度その問題意識からなされる科研補助事業があってもよいと考えられる。

申請者は長く愛媛に勤務し、豊富な俳諧資料が所蔵されながら、その保存をめぐる環境の劣悪なケースを実感してきた。そこで四国を中心として、従来の俳書にまつわる研究や現状の調査を中心とし、最終的にはシンポジウムと論文や報告書をもって世に知らしめたい。

また、あわせて平賀源内の四国時代、讃岐談林の実態についての調査を通じて、彼の知られざる伝記を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

まず、基本的に原資料を調査する。四国の俳書が現存するおもな機関は以下である。

松山市立子規記念博物館
愛媛大学
河野信一記念館
四国中央市教育委員会
愛媛県立図書館
蒲田共済会
香川大学
大洲市立図書館
四国大学

それ以外にも、個人蔵のものも多く、星加宗一『伊予の俳諧』（昭和50年7月 愛媛文

化双書23 愛媛文化双書刊行会編）に詳しい。その他、四国の俳書について報告したものに、

『今治市河野信一記念文化館図書分類目録』（昭和四十九年三月 今治市河野信一記念文化館発行）

『土居町郷土史料第一集 西条藩領伊予国宇摩郡入野村庄屋山中家文書目録』（土居町教育委員会 昭和五十七年八月）

『土居町郷土史料第七集 寛保三年伊太祁神社奉納二百歌仙表合集』（土居町教育委員会 平成三年一月）

『土居町郷土史料第九集 享和二年伊太祁宮奉納俳諧発句輯高三千章』（土居町教育委員会 平成八年三月）

『愛媛県史』資料編 文学（昭和五十七年三月 愛媛県史編さん委員会）

郷土教育資料10 『重信の俳諧資料』（重信町教育委員会 昭和五十四年二月）

福家惣衛 松尾明德『香川縣俳諧史』（昭和二十五年十一月 香川縣文化同好会）

愛媛資料ネット『今治市朝倉・満願寺資料目録』（平成二十年三月）

松山市立子規記念博物館編『第4回特別企画展 伊予の俳諧』（昭和五十七年十月）

がある。
それらを整理、調査することで研究を推進する。

4. 研究の成果

当初から予想されていたことだが、四国に於いては愛媛がもっとも俳書が残存してい

について - 』(『上方文芸研究』第十号、PP45
- 54、査読有り、2013年6月)

〔学会発表〕(計1件)

『*The Noh Renaissance in Meiji Period Japan*
(1868-1912)

フィリピン大学国際会議 2014年2月
10日

〔図書〕(計1件)
『平賀源内の研究 大坂篇』(ペリかん社、
2013年1月)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田安典 (FUKUDA YASUNORI)
日本女子大学文学部教授
研究者番号：40243141